

10.

21日西学生反戦集会へ

金曜

2. 時計台まえ

全ての学生、教職員のみんな！

来たる10月21日金曜日午後2時より、本部時計台前にありて、関西の多くの学友、戦闘的自治会の結集のもと、10月21日関西学生反戦集会を開催したい。再び「戦争前夜」の時代に突入した今、全ての皆さんのがこの集会に注目し、参加されるよう、以下訴えてゆきたい。

★日本韓軍事同盟の侵略反革命的再編強化許さぬ！

帝国主義とその傀儡政権による圧政と暴虐のくびきから自らを解放するために、アミン・アフリカ・ラテンアメリカを、民族解放を求める人民の翻りが前進しつつある。帝国主義は、「貿易摩擦」に象徴されるような相互の矛盾を激化させつつも、半島へのヘゲモニーの下、世界的な侵略反革命階級体制の構築を押し進めつつあるのだ。

米帝の'80年代世界軍事戦略とは、①民族解放闘争の高揚に対しては、「系譜化」、「いかなる地域に対しても、機動部隊の緊急投入によって任務を試み、②それに伴うソ連の介入を阻止し戦争の局面を有利に切り開くため、欧洲と極東で、ソ連への先制攻撃を、NATO軍・日韓両軍との密接な協力の下に行ない、③いずれにしても核兵器の使用を辞さない」というものである。日帝・中曾根は、ニヤニヤたる米帝の軍事戦略と露骨に一体化しつつ、二の様に「アミンの盟主」としての地位を固めんとしている。

史上最大の軍事演習として行なれたチーロスピリット'83、沖縄での米軍強襲上陸演習ハリスニアトブリッジ、そして太平洋での空母ブレゼンズ増大～3月エニターフライズ、10月カーリビニソニ体操場建造といった一連の動向は、日米韓の軍事的一体化が着々と進行していくことを示す。11月レーガン在日韓にとどけ、その後まさに一層拍車をかかるところとなろう。

★誰が我々の敵か、誰が我々の友か

日本帝国主義は、その既存の道を新植民主義の更なる實現と侵略戦争に求め、同時に国内では、様々な再編攻撃を推し進める組織された労働者階級の粉砕と全人民のファシズム統合を狙っている。「戦後の総主算」を掲げて登場した中曾根は、行革、憲法改「正」、産業構造の転換、右翼的労線統一、刑法改「正」

保守区分新設を始めとして、労働者人民からの更なる収奪、治安管理強化、イデオロギー統合を推し進めている。

学園においても、産學協同・治安管理強化が進行し、とりわけ自主管理室をめぐる攻撃化しつつある。我々は、学園において具体的にかけられてきた再編攻撃を各個撃破する斗争を負っており、築きあげた大衆運動の力でもって反戦斗争の強固な一翼を担わなければならない。

我々の斗争は決して孤立している訳ではない。アキノ暗殺を契機として燃え広がるフィリピン人民の斗争はレーガンの計画を破壊に追い込んだし、韓国では「北の普威」キャニペーンをくじき、反米反日反独裁を掲げた民主化斗争が着実に前進しつつある。帝国主義の侵略を押しとどめる不足の反帝民族解放斗争へとりわけ韓国民主化斗争に、具体的な運動・政治犯救援など一連の国内において創りあげていくことを通じて連帯していく、侵略戦争への道を「掃き清める」民族差別排外主義を解体していくかねばならない。全ての情勢が侵略戦争を指示示すとき、排外主義に屈服し「平和を守れ、日本を核戦場にするな」と叫ぶ敵を見失った運動ではなく、日韓斗争、独山斗争、反差別の斗争、三里塚斗争、反核反原発の斗争、刑法改「正」阻止の斗争、寄せ場労働者の斗争など、様々な戦線、労働運動の現場、地域での斗争との強固な結合のもと、我々の第一の敵日本帝国主義と鮮明に対決する反戦斗争を、斗争労働者人民と共に創りあげよう。

★関西学生反戦集会に参加しよう！

この京大でも、斗争学友、サークル、自治会の手でこの集会のための種々な準備が意欲的に開始されている。

全ての皆さんがこれらのひとつひとつに注目され、10月21日午後2時、時計台前に結集されるよう訴える。

共に斗わん！

京都大学
学生自治会

同志会